



発行：西成なるへそ新聞社
 ブレカプロジェクト実行委員会
 発行人：山田 亘
 編集：ブレカプロジェクト実行委員会
 山田 亘・村田 仁
 図案：村田 仁

街は新聞だ

なるへそ新聞出足好調

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三日末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレイカープロジェクトと共同企画によって生まれたこの独自の新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化と同様に新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで遣っていく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れられた出来事や大きな戦争体験ですら徐々に個人のディテールを失って単なる「歴史のページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「なるへそ記者」には報道腕やメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。



砂糖の山を登頂す

二十二日夜未明、米國より築港に着いた貨物船内で、高木進さん(23)が、砂糖の山の登頂に成功した。高木さんは船からの積み上げ業務に就いており、この日は船庭部の倉庫に精製前の砂糖が根を切られずに粒のまま、山になって運ばれて来た。高木さんは「砂糖の山」を切り崩していき、長い靴のつまみ、砂糖の上に乗るので、白い砂糖は黒く汚れる。「あれ見たら、もう砂糖食べられへんよ」と高木さん。甘くはない登山のようである。

五時からメタボ

薬酒の船つき場で荷下ろしの仕事を終る明休者の間では、港湾労働者の「メタボ肥満現象」が話題になっている。同職場で勤務する男性は、「細身の同僚が、仕事に来た時と帰る時で着ぶくれの具合いが違っていた」と述べる。最近、船つき場で船搬された荷物の

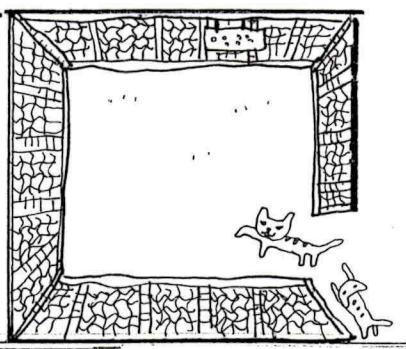


フロ野球

山王1丁目にて和光浴場を運営する3代目山口さん(7)は、金塚小学校2年生は、御家族を含め14人の生徒員で銭湯を運営している。然れども、お隣の木製ハン

ガ1制作会社から出る

球にやさしい銭湯である。働き者の山口さんは小学校から帰ってくるたびに、お隣の木製ハン



西成なるへそ新聞

山王 飛田 太子 新世界
 地域密着型アートプロジェクト
 http://breakerproject.net

和光浴場
 山王1丁目7-6
 全日営業 大人410円 中人130円 小人60円
 6~24時 水曜定休

山王1-11-5 (元 鈴木タンス店)
 山王1-11-5 (元 鈴木タンス店)

いきなり小福屋
 おいしい作務衣 別荘に送ります
 山王2丁目74-9